

# 平成30年度 学校経営計画

港区立麻布小学校  
校長 黒田 泰正

## はじめに

生涯学習の社会にあつて、学校は、子供にとって、社会で求められる知識・技能・主体性・人間関係の基礎を修得する場と言える。そのために、学校の役割は、地域・社会の協力を得ながら、子供の確かな学力、道徳心、生きる力などを身に付けさせ、徳・知・体の調和のとれた、個性ある人間の育成に努めていくことが求められている。

本校は、今年度は143年目の年を迎え、歴史ある地域の学校として今日に至っている。その間の、時代の経過、社会の激変などと深く関わりながらも、一貫して「子供のための」学校を目指してきたといえる。

本校はここ3年間、平成27年度に140周年記念式典、平成28年度に港区教育研究奨励校研究発表会（算数科）、指導室訪問等があり、港区教育委員会の指示のもとに、地域や保護者や他校に向けて本校の教育活動を発信してきた。教職員の授業改善の意識と教育公務員としての資質の向上の意識は高まったととらえている。昨年度も校内研究を発展させて、今年度の港区教育研究奨励校を申し込んだが、残念ながら受理されなかった。その結果にとらわれず、今年度も校内研究の充実を図り、教職員全員の授業力や、児童理解力を高めていきたい。

本校にきて一年間がたち、本校が継続している行事やそのやり方のよさも知り、また、改革改善していくべきものも把握した。本校の地域や伝統、特色ある教育活動も理解した。教職員には全面的信頼をもつことができている。教職員の意識や力を最大限に引き出し、気持ちよく職務遂行ができる環境を作ることが私の役目だと常に考えている。

また、教員の大きな人事異動があった。副校長や主幹教諭がそれぞれ、校長、副校長に昇任して他校に異動した。大変うれしいことであり、残った教職員にも未来の自分のあり方として見習い、学んでほしいと思う。必然的に新たな副校長や主幹養護教諭、他の異動してきた教員が配置され、新しいメンバーでの学校経営、学校づくりの出発となった。

昨年度一年間を振り返ると、一通りの年間の教育活動は定着しているが、小規模の学校のため、日々の忙しさに追われ、日時ぎりぎりになる進行や提案あった。そこで、企画会の立ち上げ、分散し偏りのない校務分掌を提案した。そして、毎年の学習発表会を、学芸会、と音楽会・展覧会に分け、隔年で交互に行い、全児童を毎年舞台上で表現させ、保護者地域にも見てもらえるようにした。

また、日常の地域を活用した授業開発や改善等、新たな課題を見つけ出し対処して、定着できる形を生み出していきたい。そして、副校長や主幹教諭・主任教諭の考えを最大限取り入れてよいアイデアを生み出し、可能なら「やってみよう」という思いで歩んでいきたい。

現在の麻布小学校の校舎は、昭和60年にできたもので、33年がたつ。きれいで、まとまった作りで、廊下が広く校庭の自然も多く、人工芝の校庭であり、恵まれた教育環境だと感じている。ただ、近年、入学児童数の増加が予想され(今年度は60人)、また、特別支援教室、日本語学級の開設にあたり、教室数の確保が今年から難しくなることから、本校の特色の一つである大きな二教室ぶんの広さの教室をそれぞれ一教室にする工事も行われる。これも新しい時代への変革だととらえ、前向きに考えていきたい。また、校庭の貸し出しや、幼稚園の運動会の使用等、可能な限り、気持ちよく受け入れる志をもつ

て歩みたい。それにおいても、私たち教職員が真摯に教育・職務に打ち込む熱い心、誠実さ、日々の研鑽の姿を積み上げていくことが不可欠になってくる。また、麻布幼稚園と共に歩む学校として、協力・助け合いの教育が自然と身に付く環境にあり、小学校教育を営むために申し分のない幸せな環境であるととらえている。

今年度は児童数が9学級254名のスタートとなった。麻布小学校は、ゆとりある時数を確保し、一人ひとりの児童を大切に、よりよく児童を理解していく。そして児童が社会に出たときに自立して生活できることを想定して、基礎学力・基礎体力・豊かな心・主体的、対話的、深まりのある学習・規範意識・勤勉、勤労の心、礼儀、節度を「生きる力」として育成し、組織的に効果のある教育活動を目指していく。

小学校教育は人格の基礎を作る大切な場である。児童の思い出を作り、学ぶ意欲と生きる楽しさを教える場である。教師や友達とのよき出会いが子供の人生の方向を決めるといっても過言ではない。従って教師一人ひとりが「教育は人なり」「人としての行動、言動、責任」の自覚のもとに、教育公務員として、社会への手本を示し、自分自身を磨き、鍛え、生涯学び続ける信念をもって歩まなくてはならないと考える。

## 1. 麻布小学校教育目標

東京都教育委員会教育目標、港区教育委員会教育目標(港区教育ビジョン・港区学校教育推進計画)を受けて、全教育活動を通して人権尊重と社会貢献の精神、一人一人の児童の豊かな個性と創造力を育む教育を実現するために次の教育目標の実現を図る。

また、児童が心身ともに健康で豊かな心を持ち、生涯を通して自主的に学び、国際社会・地域社会に貢献する意欲をもつように育てていく。そして、規範意識と実践力を育成するために長年の校訓を維持し、その具現化を推進する。

### 教育目標

- 元気な子
- やさしい子
- 考える子

### 校訓

- 自由
- 規律
- 品格

## 2. 教育目標の具現化に向けて

- (1) 人権尊重の理念を正しく理解させ、生命を尊重し、思いやりの心を育てる。
- (2) 社会貢献の精神の育成を目指して、児童が地域社会の中で必要な社会貢献ができるようになるための教育活動を推進する。
- (3) 心身ともに健康でたくましく、粘り強い児童の育成を目指す。
- (4) 基礎的・基本的な学力を確実に身に付ける指導法の工夫をしていく。
- (5) 平成30年度の「全体計画」・「年間指導計画」に基づき指導を行う。
- (6) 主幹教諭、主任教諭を生かした学校運営組織のもと、組織的に若い教員の育成を推進する。
- (7) 毎週、週案簿を作成し、管理職決済のもとに意図的・計画的な授業を実践する。
- (8) 内部・外部を問わず「迅速な初期対応と誠意ある言動」を実行していく。
- (9) 「安心、安全」を保障するために、事故・災害に備えての組織を明確にし、安全指導の徹底を図り、訓練を積み危機管理の意識を持ち続ける。

## 3. 目指す学校像

私の、目指す学校像は次のような学校である。

# 「児童が学ぶ喜びと、誇りをもち、保護者・地域の人々と共に歩む学校」

麻布小学校の入学式には 30 人を超える来賓の方がいらしてくださった。しかし、まだ地域とのかかわりは多くはないととらえている。

しかし、私は常に、この目指す学校像を念頭に置き、教職員と、保護者、地域の方々とともに歩む。運動会・学芸会・学校公開日・全体保護者会・学校評議委員会・セーフティ教室・道徳授業地区公開講座・その他の行事の開催を通して、保護者や地域へ、教育活動を広く説明・公開し、外部評価を求め、地域・家庭の声をより適用・反映できる「開かれた学校」作りを一層推進していく。

また、以下のような学校作りも目指していく。

## (1) 「明るく活気のある学校」

- ◎児童が目標をもって生活し、「学校に来るのが楽しみだ」という学校にしたい。そのために、一人一人が尊重される教育を進めていく。児童同士、児童と教師、教師と保護者が相手の立場を理解し、助け合い、励ましあう気運をつくりたいと考える。いろいろな人のおかげで人は支えあっていることを感じさせ、共に生きる姿勢や心を育む。また、あいさつがよくでき、規範意識・礼儀・節度のある児童を育成していく。

## (2) 「柔軟で創造性のある学校」

- ◎ 計画、実践、評価、振り返り (Plan・Do・See・Check) に基づいて実践をしていく。  
基礎・基本 (不易) と時代の要請へ対応できる柔軟性 (流行) の部分を学校や教師が持ち合わせるとともに受動的な学力と能動的な学力を育むようにしていく。

## (3) 「地域から信頼される学校」

- ◎教職員は教育公務員、地方公務員としての自覚をもち、児童の為になっているか、世の中の常識にあっているか、法規に照らしてまちがっていないかを判断の基準にして行動する。
- ◎信用失墜行為の防止、勤務時間やサービス基準の自覚、体罰の厳禁、個人情報の持ち出しや車通勤の禁止、守秘義務の遵守等、サービス事項の徹底を図る。
- ◎働き方改革の実現に努力することも、地域への信頼と考える。

## (4) 「礼儀・節度を教え、躰のできる学校」

- ◎目上の人、友達同士、教えていただいた人、初対面の人、お客様への最低の礼儀、あいさつ、ことば遣い・もてなし、心遣い等を、行事・授業・日常のあらゆる場面を通して教えていく。
- ◎規範意識・公共のものの使い方、正しいマナー・話を聞く態度等、社会の常識をとらえ、教職員が共通の意識や行動をとり、家庭にも啓発して育てていく学校を目指す。

## 4 育てたい児童像

- (1) 思いやりのある子 (言葉遣い・共に遊ぶ・助け合う・自己肯定感をもつ)
- (2) 基本的な生活習慣を身に付けた子 (話すこと・聞くこと・後片付け・整理整頓・時間厳守ができる)

- (3) 学習の基礎・基本の定着した子（読み・書き・計算・思考・判断ができる）
- (4) 意欲のある子（勉強・練習・仕事等をしっかりやり、挑戦する心をもつ）
- (5) 人や町や学校が好きな子（規範意識・礼儀・挨拶・感謝の心・公共心をもつ）

## 5. 期待する学級のありかた

- (1) 先生、友達の話の姿勢を正して、静かに聞くクラス
- (2) 基本的な学習・生活のルールがあるクラス
- (3) 宿題・提出物が全員きちんと出せるクラス
- (4) 補教の先生、学年の先生へお礼のあいさつが自然にできるクラス
- (5) 机の上に物が出っぱなしにならないクラス
- (6) 自らの失敗を言い合え、謝れる雰囲気のあるクラス
- (7) 黒板も掲示物も戸棚もきれいなクラス
- (8) 給食の残がないクラス
- (9) 生活に関するアンケートを毎月とり、いじめ防止に役立てる取り組みをするクラス

## 6. 本校の特色ある教育活動と、目標の具現化

### (1)学力の向上

#### ① 総合的な学習の時間・生活科での校内研究の充実

研究主題を

「自ら課題を設定し、探求する児童の育成」

～カリキュラムマネジメントを通じた単元計画の工夫

(生活科・総合的な学習の時間を中心として)～

とし、授業研究に努め、日常の授業の質を高める。授業の基礎とカリキュラムマネジメントの基礎を身に付ける。

#### ②学校公開・授業の公開

学期ごとの**学校公開**、及び毎月の第一、第三**土曜授業日**を設定し、授業を地域、保護者に公開していく。運動会・学芸会・防災訓練・セーフティ教室・道徳授業地区公開講座などを土曜日の学校公開に開催していく。

#### ③「読書タイム」読書活動の充実

週2回、朝の「読書タイム」を設定し、読書の時間と読書量を確保し、本好きの児童を増やしていく。RAS やボランティアによる読み聞かせもより多く設定していく。

#### ④「出張スピーチ」活動の充実

2週に一度、朝にスピーチを他の学級に出向いて行う。友達の前で自分の話をする経験をもとに、話す力や意欲を育んでいく。

#### ⑤ ICTを活用した授業づくり

パソコン・タブレット・大型テレビ・プロジェクター・実物投影機・大型スクリーン、SNS機能を活用して、児童が視覚的にイメージ化できる指導を工夫する。

#### ⑥ 国際科・英語の授業の推進

1年生から、国際科の授業を週2時間行い、自国の文化とともに、外国の言葉・文化・生活習慣に慣れ親しむ体験を取り入れ、児童の国際感覚を育てる。NTとともに、担任もT1として指導にあたる。

## (2) 生活指導・体験学習・朝集会の充実

### ①特別支援体制の充実

生活指導全体会・校内委員会で、特別支援教室の様子や配慮を要する児童の共通理解、共通指導を話し合っていく。特別支援巡回教員・スクールカウンセラー・学習支援員と連携して、保護者への進言・支援を適切にしていく。個別指導計画を作成して児童指導を深めていく。

### ② 安全指導、防犯指導

- ・セーフティ教室を実施する（10月）。SNSの正しい使い方、不審者進入を想定した対応を学ばせていく。
- ・通学路点検を実施したり、児童の安全の確保をしたりしていく。
- ・地域安全マップを作成し、全校に啓発したり、指導をしたりしていく。
- ・避難訓練、集団下校、引渡し訓練、交通安全教室等を実施していく。
- ・防災訓練（6月）は区の防災課や町会・麻布小地区防災協議会と連携して行う。

### ③ 奉仕活動・地域清掃

「ちょこボラ」と名づけた年4回の地域清掃を通して、自分たちの町をきれいにしていく環境への心を育む。保護者・支所にもできれば参加してもらい協働していきたい。また、毎年4年生参加の地下歩道橋の絵画の展示式や、3年生参加の六本木交差点の花を植える行事に参加していく。

### ④「麻布のやくそく、きまり」の指導

- ・生活のきまり
- ・学習のきまり
- ・校外でのきまり を全校で徹底指導していく。

### ⑤朝の活動の充実

- ・全校朝会
- ・運動朝会
- ・音楽朝会
- ・児童集会
- ・読書タイム
- ・出張スピーチ
- ・ふれあいタイム
- ・その他(歯科、ユニセフ、オーストラリア等の集会)

## (3) かかわりの活動の工夫

### ①六本木アカデミーによる六本木中学校との連携活動

※六本木アカデミー主題「自分の考えをもち、表現し、伝え合う子供の育成」  
六本木中学校との連携では、アカデミーによる研究授業公開をお互いにしあう。教員同士の交流、研究授業の参観や講評、生徒会の説明、部活体験、学校見学等を実施する。子供サミットにも参加し、内容を充実させる。

### ②六本木アカデミーによる東町小学校・南山小学校との交流

近隣の小学校と連合行事等、共に歩むようにして、同じ地域の小学校として、尊重しあう心の育成を図る

### ③六本木アカデミーによる麻布幼稚園、南山幼稚園との交流

主に、麻布幼稚園との交流だが、5年生を中心に幼稚園の運動会や展覧会の事前の交流や交流給食等を行う

#### ④異学年縦割り班交流

異学年で活動する場を設定していく。全校遠足(5月・わくわくハイキング)では、縦割り班で活動し、高学年が低中学年の世話をする。なわとび、遊び、給食等学年を超えて定期的に交流し、お互いを尊重しあう心を育む。

#### ⑤交流活動を生みだしていく

インタナショナルスクール、大使館、地方や島の学校、地域の企業・各諸機関、施設、などとの交流活動を生み出していく。

## おわりに

麻布小学校の教職員は新しい時代に入る。副校長、教務主幹、研究主任、6年間勤めた用務主事が異動になり、今年度新しい人が役割に着いた。また、新6年の担任は異動してきたばかりの教員だが、過去の実績をとらえて任せることにした。また、新2年生は2クラスだったものが1クラスになり多人数となった。新1年生も近年になく多人数で30人の2クラスになった。どの学年も課題があり大変である。何とか明るく楽しく元気な集団をつくってほしい。

また、日本語学級開設の年になり、通級の児童に効果的な教育が施せるようにしていきたい。日本語学級にベテランの経験のある教員が入ってくれて心強い。

活発で明るい中堅・若手教員が協力しあってよりよい時代にしていきたい。新しく来た教員、海外から戻ってきた教員にも期待している。ぜひこれからの麻布小学校をつくってほしい。新しく来た教職員には、ぜひ、経験してきたことがあれば提案したり、意見したりしてほしい。

麻布小学校は、課題もたくさんあるが、教職員の人柄は皆すばらしい。誠実で相手を思いやれる。一生懸命さもあり、楽しさもある。わたしが目指す学校を実現してくれる集団である。

次のことを心掛けて教育活動をすすめてほしい。

- ・学年会に時間をかけ、日々一所懸命やってほしい。
- ・子供たちまかせにせず必ず指導を入れてほしい。挨拶指導はすばらしい。
- ・子供には、礼儀やことばづかいの躰をしてほしい。
- ・会議でも、自分の意見はどんだん言い、決まったらきちんと守ってほしい。
- ・厳しい日程でも、期日を守り責任をもってほしい。
- ・先輩の先生方が若手の先生に時間をかけて、よく教えてほしい。
- ・教職員は礼儀や服装の乱れにも気を付けてほしい。
- ・外部の人に、失礼のないように、誠実に笑顔で接してほしい。
- ・研究では、時間をかけて何回も話し合い、実践しあい、質を高めてほしい。
- ・これからも温かい雰囲気でごこちのよい職員室であってほしい。

校長として、これらを願い、そして教職員に指導をしていく。また、校長として、教職員を大切にし、教職員のご家庭の事情も話せる信頼を作り、気持ちよく働ける環境を作り、更に力を伸ばすように育てていきたい。